

第六全集

別

日本財団支援

笛川良一記念文庫

財団法人日本科学協会

赤壁全集

別  
卷

赤彦全集 別巻

定價 千三百圓

昭和四十五年四月二十八日 発行

◎著者 久保田俊彦

◎著作権者 久保田俊彦

発行者 岩波雄二郎

東京都千代田區一ツ橋二ノ五  
株式會社 岩波書店

大日本法令印刷・三水舎製本

落丁本・亂丁本はお取替えいたします

目 次

年代順全歌集 ······ 一

全歌集初句索引 ······ 二二二

製作年表 ······ 二九

年  
代  
順  
全  
歌  
集



目次

歌集 馬鈴薯の花以前 初期より

|             |                     |      |
|-------------|---------------------|------|
| 鶴時雨         | 思往時                 | 〔六五〕 |
| 除夜雨         | 冬日閑居                | 〔六五〕 |
| 歸雁離々        | 朋友                  | 〔六五〕 |
| 雪中梅         | 名所雪                 | 〔六五〕 |
| 八十の翁をいはひて   | 冬衾                  | 〔六五〕 |
| 捨子          | 貴賤迎春                | 〔六五〕 |
| 時雨          | 菅公                  | 〔六五〕 |
| 歲暮言志        | 故鄉の春月               | 〔六五〕 |
| 〔歌謡山櫻〕      | 靜妓                  | 〔六五〕 |
| 更衣          | 雪中柳                 | 〔六五〕 |
| 深山避暑        | 春雨                  | 〔六五〕 |
| 蓮           | 諏訪湖を望みて<br>某氏に贈るとして | 〔六五〕 |
| 雨後風涼        | 古鄉杜鵑                | 〔六五〕 |
| 蓮           | 蛙                   | 〔六五〕 |
| 山家秋夕        | 河邊蟹                 | 〔六五〕 |
| 野草花         |                     | 〔六五〕 |
| 遠山鹿         |                     | 〔六五〕 |
| 雜詠蟲         |                     | 〔六五〕 |
| 古寺殘月        |                     | 〔六五〕 |
| 窓前月         |                     | 〔六五〕 |
| 四季雜詠        |                     | 〔六五〕 |
| 同右述懷        |                     | 〔六五〕 |
| 落葉松         |                     | 〔六五〕 |
| 明治二十七年 六十四首 |                     |      |
| 柳           |                     |      |
| 遠夕立         |                     |      |
| 雨後蟲         |                     |      |

我がみいくさ勝ちて云々

一九二

【手植の千くさ 其一園】

新年 雜詠

一九二

同 新年 雪

一九二

題しらず

一九二

諏訪郡南大鹽學校の小使云々

一九二

題しらず

一九二

師範學校前の梅花をみてよめる

一九二

思花頬風

一九二

偶感

一九二

偶朋友

一九二

淡雪

一九二

郭公鳥

一九二

窓漁村

一九二

夕立

一九二

立往時

一九二

立秋

一九二

露雑詠

一九二

同雨のふりづきける日云々

一九二

戀のうたとて

一九二

旅中雁

一九二

おなじき題にて

一九二

草花

一九二

支那なるしこくだと云々

一九二

諏訪のうみにて

一九二

秋夕

一九二

同前船でふ題を得て

一九二

竹亭雨てふ題を得て

一九二

秋風涼てふ題を得て

一九二

九月十三日のあさ云々

一九二

見るがままを

一九二

九月十三日畏くも大本營を云々

一九二

九月十六日、三澤、矢島の二君と云々

一九二

詠感

一九二

田家のあきのさまを

一九二

十月なかつかた病によりて云々

きり

秋田

月夜醉後乘興一人徘徊邊得一詠

三上

萬歳萬々歳

三下

歲暮得一首

三下

明治二十八年 百五十二首

三上

初紅葉

三上

花のうたとて

三上

歸雁

三上

山櫻

三上

五月雨

三上

都夕立

三上

汽車窓月

三上

桃山にて

三上

日清戰爭後國民の覺悟を

三上

平安神宮に詣でて

三上

琴きき橋にて

三下

猿澤池にて

三下

諫訪湖にて

三下

嵯峨野にて

三下

補遺二首

「修學旅行記より二十四首」

八月一日 桃山にて

正行寺

平等院

茶亭にて

二日、長池をたもて奈良におもむく

奈良興福寺

野守の池云々

手向山八幡宮

春日神社

猿澤の池に衣掛の柳といふあり

八月三日、敵傍にむかふ

飛鳥川

耳無山といふ名をききて戯れに

八月四日、笠置山

八月六日、今日は大廟へまゐらんとするに

八月七日、尾張へと船出す

津につく

乙未元旦雜詠

其一園 むつき六日ばかり小林のきみの樓上にて

|                                |     |
|--------------------------------|-----|
| おなじく(狂歌).....                  | 三六上 |
| 二十八年御題寄海祝.....                 | 三六上 |
| むつき九日ばかり牛山氏と夜徘徊して.....         | 三六上 |
| おなじきつき十二日といへるに云々.....          | 三六上 |
| 雪のふりける日よめる歌ども(むつき十七日)(四首)..... | 三六上 |
| 花 薫 袖.....                     | 三六上 |
| 春 浦 眺 望.....                   | 三六上 |
| 雪のふりける日大峯山をのぞみて.....           | 三六上 |
| 燐仁親王殿下の御薨去を悲しみて.....           | 三六上 |
| 立春の朝といへるに云々.....               | 三六上 |
| 旅 中 春 雨.....                   | 三六上 |
| 體操時間に雪中遠足をなすとて.....            | 三六上 |
| 我海軍定遠鎮遠諸艦を擊沈云々.....            | 三六上 |
| 歸 雁.....                       | 三六上 |
| 宵より降りつづきたる春雨に云々.....           | 三六上 |
| 偶 詠.....                       | 三六上 |
| うめの花に雪のかかれるを.....              | 三六上 |
| 三月十二日教場にて口吟みたるを.....           | 三六上 |
| 勝家ぬしにわかるとて.....                | 三六上 |
| 春の野にあそびて.....                  | 三六上 |
| 春 の あ さ.....                   | 三六上 |
| 偶 作.....                       | 三六上 |
| さかりにも及ばぬ花のもとに云々.....           | 三六上 |
| 花 薫 袖.....                     | 三七上 |
| 春 浦 眺 望.....                   | 三七上 |
| 雪のふりける日大峯山をのぞみて.....           | 三七上 |
| 燐仁親王殿下の御薨去を悲しみて.....           | 三七上 |
| 立春の朝といへるに云々.....               | 三七上 |
| 旅 中 春 雨.....                   | 三七上 |
| 體操時間に雪中遠足をなすとて.....            | 三七上 |
| 我海軍定遠鎮遠諸艦を擊沈云々.....            | 三七上 |
| 歸 雁.....                       | 三七上 |
| 宵より降りつづきたる春雨に云々.....           | 三七上 |
| 偶 詠.....                       | 三七上 |
| うめの花に雪のかかれるを.....              | 三七上 |
| 三月十二日教場にて口吟みたるを.....           | 三七上 |
| 勝家ぬしにわかるとて.....                | 三七上 |
| 春の野にあそびて.....                  | 三七上 |
| 春 の あ さ.....                   | 三七上 |
| 偶 作.....                       | 三七上 |
| さかりにも及ばぬ花のもとに云々.....           | 三七上 |
| 花 下 閑 居.....                   | 三七上 |
| 庭のさくらを見て.....                  | 三七上 |
| 花 下 閑 居.....                   | 三七上 |
| 花のうたとて.....                    | 三七上 |
| 兵 士.....                       | 三七上 |
| 從軍の兵士をおもひ出でて.....              | 三七上 |
| 花のうたとて.....                    | 三七上 |
| さくらの花のうた.....                  | 三七上 |
| 四月十三日上水内郡阿茂里のさとの云々.....        | 三七上 |
| 野 外 櫻.....                     | 三七上 |
| 落 花.....                       | 三七上 |
| 四月十四日友人とともに云々.....             | 三七上 |
| 野邊にあそびけるに云々.....               | 三七上 |
| 夕 落 花.....                     | 三七上 |
| 善 光 寺 詣.....                   | 三七上 |
| 四月廿八日大峯にのぼりて.....              | 三七上 |
| おなじき日神代櫻をみて.....               | 三七上 |
| おなじき日山吹を手折るとて.....             | 三七上 |
| 落 花 多 趣.....                   | 三七上 |
| さくらの散るをみて.....                 | 三七上 |
| 四月三日といへるに云々(四首).....           | 三七下 |
| 八十八のいはひ.....                   | 三七下 |
| ひばりのあがるをみて.....                | 三七下 |
| 庭前の梅を見て.....                   | 三七下 |
| 花 下 閑 居.....                   | 三七下 |
| 從軍の兵士をおもひ出でて.....              | 三七下 |
| 花のうたとて.....                    | 三七下 |
| さくらの花のうた.....                  | 三七下 |
| 四月七日内藤君と共に云々.....              | 三七下 |
| 兵 士.....                       | 三七下 |
| 從軍の兵士をおもひ出でて.....              | 三七下 |
| 花のうたとて.....                    | 三七下 |
| 花 下 閑 居.....                   | 三七下 |
| 庭のさくらを見て.....                  | 三七下 |
| 花 下 閑 居.....                   | 三七下 |
| 花のうたとて.....                    | 三七下 |
| さくらの花のうた.....                  | 三七下 |
| 四月十三日上水内郡阿茂里のさとの云々.....        | 三七下 |
| 野 外 櫻.....                     | 三七下 |
| 落 花.....                       | 三七下 |
| 四月十四日友人とともに云々.....             | 三七下 |
| 野邊にあそびけるに云々.....               | 三七下 |
| 夕 落 花.....                     | 三七下 |
| 善 光 寺 詣.....                   | 三七下 |
| 四月廿八日大峯にのぼりて.....              | 三七下 |
| おなじき日神代櫻をみて.....               | 三七下 |
| おなじき日山吹を手折るとて.....             | 三七下 |
| 落 花 多 趣.....                   | 三七下 |
| さくらの散るをみて.....                 | 三七下 |

新樹といへる題にて即詠

## [手植の千ぐさ 其一園]

三五上

手植の千ぐさ其二園の扉に

三五上

五月七日の夜云々

三六上

五月八日兄上の急に京都轉任となりて云々

三六下

感ずるところありて

三六下

五月雨晴

三六下

おなじく

三六下

五月十二日といへるに、三澤君と共に云々

三六下

みちすがらよめる

三六下

五月雨

三六下

野徑卯花

三六下

都杜鵑

三六下

羈中雲

三六下

曉時鳥

三六下

五月卅日大元帥陛下の鳳輦云々

三六下

夏の夕裾花川にて

三六下

兄のきみいよいよ六月三日をもて臺灣にむかふとききて

三六下

渡瀬の兄上をおもひて

三六下

分拂品のきせるをみて

三六下

倉谷君のまきおける麥をみて

三六下

蓮

三六下

學校の庭前にて

三六下

七月五日夜口吟みけるを

三六下

蟹

三六下

古城松

三六下

家をいづるとて

三六下

仲秋夜難詠

三六下

東京・兄上をおもひて

三六下

臺灣なる兄をおもひて

三六下

小平先生のみまかりたまひしききて

三六下

題しらず

三六下

時雨

三六下

失題

三六下

時雨はれたるあと月影云々

三六下

秋哀傷

三六下

初雪

三六下

長田松の丞君の凱旋し玉ふとききてよめる

三六下

長田君のところとなりて

三六下

明治二十九年 三十九首

三六下

夏夕風

三六下

立秋

三六下

偶詠

三六下

〔手植の千ぐさ 其二園〕

|      |     |            |                 |                 |    |    |
|------|-----|------------|-----------------|-----------------|----|----|
| 丙申元旦 | 壽山祝 | 十二日家をいづるとき | 祖母上の七十七の賀をよろこびて | 内藤清三郎君の永逝をかなしみて | 送別 | 雜吟 |
| 四上   | 四上  | 四上         | 四上              | 四下              | 四下 | 四下 |
| 四上   | 四上  | 四上         | 四上              | 四下              | 四下 | 四下 |
| 四上   | 四上  | 四上         | 四上              | 四下              | 四下 | 四下 |
| 四上   | 四上  | 四上         | 四上              | 四下              | 四下 | 四下 |

〔手植の千ぐさ 其三園〕

|              |    |               |                            |                |    |                 |           |        |    |    |             |     |                     |                   |      |              |          |
|--------------|----|---------------|----------------------------|----------------|----|-----------------|-----------|--------|----|----|-------------|-----|---------------------|-------------------|------|--------------|----------|
| 手植の千ぐさ其三園の扉に | 偶詠 | 附屬小學校擬戰運動會をみて | 久しくあはざりつる友宮阪國吉君のみまかられしをききて | 杜若のさきいでしをみてよめる | 偶詠 | 六月四日のよ友にわかれんとして | 感するところありて | 花のうたとて | 偶詠 | 春  | 亡母十三年忌にあたりて | 人生成 | 五月一日一友とつれだちて千ぐま川に遊ぶ | いまのはは上のみめぐみをおもひいで | 夏景一束 | 甥なりけるのつくれる中に | 残花てふ題を得て |
| 四下           | 四下 | 四下            | 四下                         | 四下             | 四下 | 四下              | 四下        | 四下     | 四下 | 四下 | 四下          | 四下  | 四下                  | 四下                | 四下   | 四下           |          |
| 四下           | 四下 | 四下            | 四下                         | 四下             | 四下 | 四下              | 四下        | 四下     | 四下 | 四下 | 四下          | 四下  | 四下                  | 四下                | 四下   | 四下           |          |
| 四下           | 四下 | 四下            | 四下                         | 四下             | 四下 | 四下              | 四下        | 四下     | 四下 | 四下 | 四下          | 四下  | 四下                  | 四下                | 四下   | 四下           |          |
| 四下           | 四下 | 四下            | 四下                         | 四下             | 四下 | 四下              | 四下        | 四下     | 四下 | 四下 | 四下          | 四下  | 四下                  | 四下                | 四下   | 四下           |          |

明治三十年 百三首長歌一首

|                     |                   |
|---------------------|-------------------|
| 初旅にてよめる             | 冬                 |
| 補遺詩歌集「西水行吟」より       | 二十六首              |
| 自題                  | 題                 |
| 丁酉元旦                | 都早春               |
| 御題松影映水              | 立春風               |
| 諭訪湖吟詠               | 失題                |
| 皇太后陛下崩御あらせられ玉ひしを云々  | 春風吟               |
| 五月一日一友とつれだちて千ぐま川に遊ぶ | いまのはは上のみめぐみをおもひいで |
| 夏景一束                | 甥なりけるのつくれる中に      |
| 残花てふ題を得て            |                   |

木外の上京を送る.....  
人々に送りたる短歌..... 七首  
..... 呉上

明治三十四年 五十三首  
..... 呉上

鹿 紅 葉 ..... 呉上  
葉 ..... 呉上  
題 二首 ..... 呉上  
赤羽をおくる ..... 呉上  
草 まくら ..... 呉下  
霜月ばかり北信地方を云々 ..... 呉下  
偶 詠 ..... 呉下  
有餘慶歌一首並短歌 ..... 呉下

明治三十一年 十五首 ..... 呉下

弔生徒北條傳死 ..... 呉下  
人々に送りたる短歌 九首 ..... 呉下  
..... 呉下

明治三十三年 二十八首 ..... 呉下

森 ..... 呉下  
白 骨 行 ..... 呉下  
乘鞍山にのぼりて ..... 呉下  
白 萩 ..... 告 ..... 呉下  
繪 端 書 ..... 告 ..... 呉下  
開 橋 ..... 告 ..... 呉下  
五郎信盛の墓にて ..... 告上

筆 鍾 阵 ..... 呉上  
氣 ..... 呉上  
池田の里を出づる時 ..... 呉上  
月 島 丸 ..... 呉上  
外兵暴虐をよめる ..... 呉上  
池田の里を訪ひて ..... 呉上  
寒 菊 ..... 呉上  
硯 ..... 呉上  
手 紙 ..... 呉上  
草 鞋 ..... 呉上  
北山の友より河魚多く送らる ..... 告上  
哀 傷 ..... 告上  
春 の 夜 ..... 告上  
野 球 ..... 告上  
高遠雜詠 ..... 告上  
補 遣 二首 ..... 告上

|                      |      |   |
|----------------------|------|---|
| 明治三十五年               | 三十首  | 金 |
| 七草集                  |      |   |
| 棹子規居士追善              |      |   |
| 二月二十六日               |      |   |
| 人々に送りたる短歌            | 一首   |   |
| 明治三十六年               | 百八十首 |   |
| 人の妻の若くしてゆきけるを悲しむ歌    |      |   |
| 去年の秋よりこの方の歌の中に       |      |   |
| 祖母のみまかりに             |      |   |
| 同じく                  |      |   |
| 人を送る                 |      |   |
| 運動會                  |      |   |
| ねむ庵雑事                |      |   |
| 男                    |      |   |
| 友の新婚を祝ふ歌             |      |   |
| 兎狩                   |      |   |
| 新星東都より花葉のくさぐさを送れるに答ふ |      |   |
| 福壽草                  | 相撲   |   |
| 歸耕歌                  |      |   |
| 教室の水桶に兒等種々の花を洒けたり    |      |   |
| 遊座氏を送る               |      |   |
| 海棠・平氏・兵士             |      |   |
| 諏訪湖・諏訪湖につきたる名所       |      |   |
| 乞食                   |      |   |
| 浴本澤温泉並登攀赤嶽山頂歌        |      |   |
| 駒草を詠する歌              |      |   |
| 夕立                   |      |   |
| 適々戸水博士の「東亞旅行談」を繙く    |      |   |
| 祝寒水新婚                |      |   |
| 桑                    |      |   |
| 夏川                   |      |   |
| 床拂の祝                 |      |   |
| 夜刈                   |      |   |
| 贈讀屁臣歌                |      |   |
| 炬燵の歌                 |      |   |
| 補遺                   |      |   |

人々に送りたる短歌 五首 ..... 先上

戯詠馬酔木 ..... 先下  
詠躑躅花 ..... 先下  
志士冲頼介を悲しむ ..... 先下

明治三十七年 百七十四首 ..... 先上

植物採集の歌 ..... 先下  
雉夫男を擧ぐ ..... 先下  
貧しき友に送る歌 ..... 先下

梅 ..... 先上  
追憶の歌 ..... 先上  
ゴルドン將軍 ..... 先上

山登り ..... 先下  
左千夫氏來んと云ひて來ずなりし時詠める歌 ..... 先下

想月島丸乗組員三澤弘君謡 ..... 先上  
吾寓は蓼科山坡の岡裾にあり ..... 先上

左千夫氏突如來る ..... 先上  
雨(秋冬)・柿・美人・新停車場 ..... 先上

征露難詠 ..... 先上  
第三回旅順攻撃水雷艇にちなみてよめる ..... 先上

十一月十九日古田の生家に歸り父母と酒を置きて歌へる歌 ..... 先上  
十一月二十七日。左千夫先生を數氏と巖温泉に迎へて云々 ..... 先上

哭三浦海軍中尉 ..... 先上  
三月左千夫ぬし来るよし云ひこされしを云々 ..... 先上

霜 ..... 先上  
人々に送りたる短歌 一首 ..... 先下

妻不二、女初瀬、皆有因帝國軍艦名、云々 ..... 先上  
呈土橋老先生 ..... 先上

諫訪歌 ..... 先下  
愚庵遺稿をよむ ..... 先下

雉夫に馬酔木の花を乞ひ得て詠める ..... 先上  
冬 ..... 先上

旅順陥落 ..... 先上  
鮭 ..... 先上

哭三浦海軍中尉 ..... 先上  
児の眼病三月に瓦りて未だ癒えず。悲しみて詠める ..... 先上

霜 ..... 先上  
人々に送りたる短歌 一首 ..... 先下

明治三十八年 二百十三首 ..... 先上

諫訪歌 ..... 先下  
愚庵遺稿をよむ ..... 先下

初瀬誕生日に ..... 先上  
雉夫に馬酔木の花を乞ひ得て詠める ..... 先上

旅順陥落 ..... 先上  
鮭 ..... 先上

薬草をつむ歌 ..... 先上  
冬 ..... 先上  
田 ..... 先上  
薬草をつむ歌 ..... 先下

|               |                |             |       |
|---------------|----------------|-------------|-------|
| 學 校           | 石・紫雲英          | 歌 日 記       | 和田峠上  |
|               | 石 竹 花          |             | 仙 姥 瀑 |
|               | 地藏寺に遊ぶ         |             | 靜     |
| 東 京 行         |                | 柿人庵歌會       |       |
|               | 宿直日誌中より        | 歌 日 記       |       |
|               | 友病みて未だ癒えず      | 碓 水 行       |       |
|               | 今春愛弟を失ふ        | 蕨真氏の病重きを聞きて |       |
|               | 今年一人して植物採集に行く  | 補 遣 四十三首    |       |
| 夕 風 棚         |                | 人々に送りたる短歌   | 七首    |
| 我家の動物         |                |             |       |
| 霧ヶ峰登山歌        |                |             |       |
| 秋の田・蜻蛉・殘暑・朝草刈 |                |             |       |
| 秋の山・霧・灯・秋の菓物  |                |             |       |
| 初 冬 集         |                |             |       |
| 大 町 行         |                | 明治四十年 百九十九首 |       |
| 木 崎 湖         |                |             |       |
| 炬 焰 の 歌       |                |             |       |
| 補 遺 八十二首      |                |             |       |
| 人々に送りたる短歌 六首  |                |             |       |
| 明治三十九年 百六首    |                |             |       |
|               | 湖 上 所 觀        |             |       |
|               | 梅              |             |       |
|               | 奉詠東宮遠遊         |             |       |
|               | 消 息 歌          |             |       |
|               | 若 葉            |             |       |
|               | 石 岐 蘇 行        |             |       |
|               | 歌 日 記          |             |       |
|               | 九十九里の濱なる左千夫に贈る |             |       |